

ガブロノーライトかグラニュライトかーオマーンオフィオライトにおける例

Granulite or gabbroonorite?: Criteria for distinction between granulite and gabbroonorite in the Oman ophiolite

足立 佳子 [1]; 宮下 純夫 [2]; 山崎 秀策 [2]

Yoshiko Adachi[1]; Sumio Miyashita[2]; Shusaku Yamazaki[2]

[1] 北大・理・地球惑星; [2] 新潟大・理・地質

[1] Earth and Planetary Sci., Hokkaido Univ.; [2] Dep. Geol., Fac. Sci., Niigata Univ.

オマーンオフィオライト斑れい岩層における「ガブロノーライト」の出現は、海嶺セグメント境界部の指標とされ (Juteau et al., 1988; MacLeod et al., 1992; Lachize, 1996; Boudier et al., 2001), 特別な意義を持たされてきた。ところが調査の進行に伴いこれまで報告されていなかった幾つかの地域からガブロノーライト岩体が続々と見いだされつつある。昨年の調査により、新たにワジキャビヤット地域からも数百メートル規模の細粒ガブロノーライト岩体が発見された。一方、海嶺セグメントの中心部付近と考えられるアイススクバ地域からは、シート状岩脈群が変成されたグラニュライトが確認されており、これらとガブロノーライトとをどのように区別するのが問題として残されていた、問題とされる岩石が、シート状岩脈群が変成されたものなのか、あるいはマグマとして貫入したものかを区別する事は、海嶺火成活動や海嶺下での地質学的プロセスを理解するために避けて通れない問題である、

今回、我々は全岩化学組成や鉱物の化学組成的特徴から、両者の区別に関して新たな知見を得たので報告する。さらに、オフアクシ